



〔園長のことば〕

平成 28 年度 竜光保育園 第 616 号

ようやく、猛暑もおさまりそうな今日この頃となりました。とは言え、昨今の異常気象何が起るかわかりません。運動会の練習もいよいよ熱を帯びていきます。体調にはくれぐれもご留意下さい。

さて、至上最多のメダルを獲得し、数々の感動を私たちにあたえてくれたリオオリンピックが閉幕しました。多くの競技で様々なドラマがくりひろげられた中で、私が印象に残ったのは、「競歩」での銅メダル争いを繰り広げた日本とカナダの選手についてです。ご存知の方も多いでしょうが、競歩のレース後半に日本の荒井選手とカナダの選手が接触し、そこでカナダ選手が少しよろける中、最終的には荒井選手が3位でゴール。しかし、カナダ側から「接触が妨害行為では」という抗議がなされ、それが認められ一旦は荒井選手の銅が取り消されます。この裁定に対し日本側も抗議、結局荒井選手の銅メダルが決定するという二転三転するほろ苦い様相を呈しました。そんな後味の悪さを引きずったまま迎えた閉会式、そのニュースがテレビで流される中、思いもよらない映像が飛び込んできました。閉会式での荒井選手とカナダ選手の満面の笑顔での2ショット写真です。何でもカナダ選手が自身のツイッターを更新しアップしたものだそうで、荒井選手の手にはカナダ国旗をあしらった手袋のようなものが、一方のカナダ選手の手には日本の国旗が、そしてその写真には「Why We Sport(我々がスポーツをする理由)」というタグが付けられていたようです。ともすると《商業オリンピック》と揶揄された中で、それを払拭するための単なる美談や感動の押し売りではないかという声も聞こえてくるかもしれませんが、熾烈なレースを繰り広げたアスリート同士にしかわからないワールドがきっとあるのだと思います。勝ち負けや国籍を越えたその向こうに…。

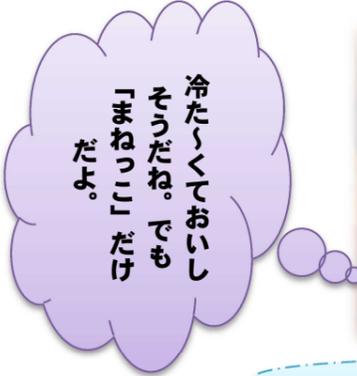
4年後に東京で開催されるこのイベントが、メダル争いや勝ち負けのみに終始するのではなく、本当の意味でのスポーツを通じての平和の祭典としての意義をさらに高め、世代や性別、国籍等を越えてともに共感することができるようなシーンを見せてくれることを願うばかりであります。

《～この花知ってる?～vol.5》

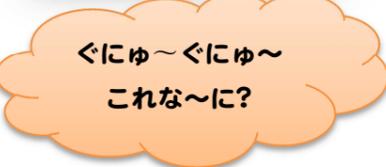
彼岸花(ひがなばな) ※曼珠沙華[まんじゅしゃげ(か)]とも言い、秋のお彼岸の頃、田んぼのあぜ道などでよく見かけられます。球根に毒性があるのでご注意を!



※インドのサンスクリット語で「天上の赤い花」の意



《寒天遊び》だぞー!》



新道寺小学校の先生方が《1日保育士体験》で来園して下さいました。子どもたちは大喜び!有難うございました。

- 3日(土) 保育参観(体操教室)
- 6日(火) 体操教室
- 14日(日) 誕生会
- 19日(日) 東谷敬老会(年長組参加)
- 20日(火) 体操教室
- 23日(金) } 小運動会
- 24日(土) }
- 下旬 避難訓練
- ※10月1日(土) 運動会



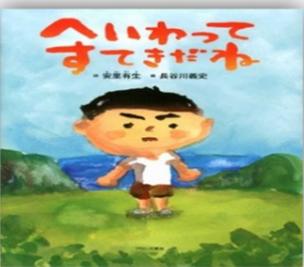
“鼓笛”の特訓中です! 運動会に向けてファイト!



おすすめ絵本のコーナー



『ママのスマホになりたい』 作: のぶみ 出版社: wave 出版
シンガポールの小学生が著した『スマホになりたい』という作文を元に人気絵本作家が描いた作品です。毎日仕事&育児に追われる保護者の皆さん、“ちょっと息抜きにスマホ”がついつい長時間に…。そんな経験どなたにもあるのでは。「ちょっとだけ、スマホを置いて、子どもの顔を見てみよう。そこには、気づかなかった笑顔がいっぱいあるはず」という絵本の帯に記されている言葉が《スマホ社会》に生きる私たちに問いかけているようです。



『へいわってすてきだね』 詩: 安里 有生 画: 長谷川 義史 出版社: ブロンズ新社
沖縄県与那国島の小学校1年生の少年が「沖縄全戦没者追悼式」で朗読した詩が原作となっています。少年が綴った言葉のひとつひとつが、戦争のない日常を送っている事がいかに大切で有難いものなのかを訴えかけてくれているようです。詩中の「みんなのころからへいわが生まれるんだね」というセンテンスがとりわけところに響いてきます。

